



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：530千円

UD絵本コンクール2018 および 世界のバリアフリー児童 図書展2017、UD絵本ワークショップ

目的・趣旨 UD絵本コンクールやUD絵本ワークショップの開催により、すべての人が共に生きられる社会への関心を高める。さらに絵本の可能性を追求する。

日時・場所 平成30年5月19日から平成31年3月25日
静岡文化芸術大学(ギャラリー、総合演習室、422教室)および浜松市立図書館など

体制

(実施代表者)	文化政策学部	文化政策学科	教授	林 左和子
(実施分担者)	デザイン学部	デザイン学科	教授	的場 ひろし
	文化政策学部	文化政策学科	准教授	小杉 大輔
	デザイン学部	デザイン学科	准教授	かわ こうせい

共催・後援等 (後援)
静岡県、静岡県教育委員会、静岡県立中央図書館、浜松市、浜松市教育委員会
日本図書館協会、絵本学会、日本国際児童図書評議会 ほか

内容

世界のバリアフリー児童図書展2017は7月7日～10日、本学の総合演習室で開催した。4日間で172人の来場者があった。UD絵本コンクール2018は 応募作品は37点(子ども部門16点、高校生部門8点、一般部門13点)であった。この中から、UD研究賞1点、審査委員長特別賞1点、子ども部門優秀賞2点、佳作4点、高校生部門佳作1点、一般部門優秀賞1点(学生大賞兼)、一般部門佳作4点が選ばれた。碧風祭で表彰式、さらに11月17日～22日に本学ギャラリーで応募作品の展示会を開催した。展示会には154人の来場者があった。また入賞作品を中心に選抜した作品を、浜松市役所(3月11日～15日)と品川・大崎のIBBY子どもの本の日フェスティバル(3月23日～24日)で展示した。



jbby子どもの本の日フェスティバル



浜松市役所展示会

結果・成果

「学生大賞」投票には、1年生～4年生までの27人が投票に参加した。順位だけでなく、「なぜその作品を選んだか」も書くことになっている。投票に参加することで、学生たちは、「UDとは何か」、「良い絵本」とは何かを真剣に考えた。応募者は作品をつくる中で、市販絵本を楽しむことができない子どもたちについて研究したり、ユニバーサルデザインについての知識を深めることができていた。この応募者の理解が作品を通して展示会来場者に伝わっている。例えば、UD研究賞に選ばれた「ぼくの大きさ パート1」が、見て確認することができない大きさを伝えることを目的としていることを知ることで、視覚障害児の状況を想像することができる。また佳作「ゆらりん」と「てってって」も「見えない子どもが楽しむ」ことを創作のスタートにしている。「絵本」が先にあってそれを変換させるのではなく、どういう作品であれば楽しむことができるのかという発想の重要性に気づかせてくれる。来場者から、作品に触れることでユニバーサルデザインへの関心を高めることができたというご意見をいただくことができたのは、こういった作者の思いが伝わったからだと考える。

